

2023
1

Miss Japan News

ミス日本ニュース

Vol.214
2023年2月6日発行
一般社団法人ミス日本協会



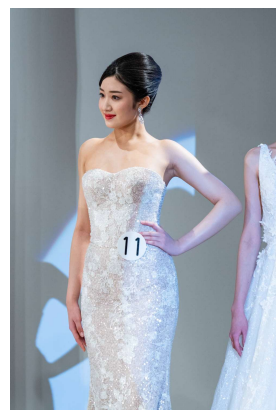
「ミス日本」は本協会の登録商標です。

2023年、第55代ミス日本、決定！



ミス日本グランプリは
吉岡恵麻さん 20歳(関西学院大2年・兵庫県芦屋市)

ミス日本特別賞には
江村美咲さん



和歌や古典、伝統文化に造詣

「ながらへば またこの頃や しのばれむ 憂しと見し世ぞ今は恋しき」小学生の頃に出会ったこの和歌一首に込められた思いや世界に魅了され、古典の魅力を世に広げたいとキラキラした目でお話する大学2年生です。

幼稚園のときからテニスに夢中になり、10歳でロサンゼルスに

海外遠征をするほど打ち込みました。高い身長を活かした運動神経にも自信があります。

将来の夢は古典の魅力をより多くの方に知っていただくこと。そのためにもまずは正しい日本語をマスターしたいと思い、アナウンサーを志しています。さらに学芸員の資格取得も目指し、古き日本の良さを愛し、発信する存在を目指します。



和田静郎特別顕彰ミス日本

江村美咲 えむらみさき
フェンシング日本代表



「美しい肉体に、美しい精神と強靱な意志が宿る」というミス日本大会創始者の和田静郎の信条に従い贈られる特別賞。フェンシング日本代表として世界選手権やワールドカップでの優勝経験もある江村美咲選手（立飛ホールディング所属）に贈られました。壇上では「美人画のムラヤマ」として世界に知られる村山直儀画伯による肖像画が贈られました。更なる活動に期待がかかります。

ミス日本みどりの大使



上村さや香 かみむらさやか
24歳 東京都出身
慶應義塾大学大学院修士2年

「作詞作曲、そして歌うことが、私の生きがい」

生まれと育ちは東京・浅草。かんざし鋳師を祖父に持ち職人気質を受け継いでいます。特技のギター弾き語りでは、子供たちのリクエストに即興で応えるなど技量十分。高校2

年時にメジャーデビューを果たすものの、大学の卒業と同時に契約は終了。しかし自らの軸は音楽にあると確信。今後はシンガーソングライターやラジオDJなど、聞き手の心に響くメッセンジャーを志しています。心に決めた道を歩もうとする情熱に溢れています。

ミス日本ミス着物



寺嶋琴 てらじまこと
20歳 神奈川県横須賀市出身
東京大学文化一類2年

幼い頃から法律に興味を持ち、裁判所の傍聴席へと通うほど。法廷通訳人の制度をもっと充実させることで、国際社会に対応した日本を実現できると考えるに至り、現在は弁護士を目指しています。

自らの学びを社会に発信・還元することを目指し成長を目指す姿を見れば「こんな人がいるなら将来の日本は大丈夫だな」と思うことでしょう。

ミス日本「水の天使」



竹田聖彩 たけだせいあ
20歳 愛知県名古屋市出身
名古屋大学医学部2年

コロコロとした笑顔と、落ち着いた物腰、優しい雰囲気をもった医学部生です。

かつて、食物アレルギーに苦しんだ経験から医師を志します。安心する医師とは、豊かなコミュニケーション力と専門知識を丁寧に解説できる姿勢だと考え、患者に寄り添

える人物を志します。4歳から11歳までタイのバンコクに在住。また、高校時代はアメリカとオーストラリアにも留学経験があり、英語を身に付けています。彼女のことを一言で表すと「丁寧」。発する言葉も吟味してお話する様子から、相手のことを慮る姿勢が強い人柄です。

ミス日本「海の日」



稲川夏希 いながわなつき
21歳 東京都出身
慶應義塾大学法学部3年

生徒会、ゼミ代表、慶應大学の講演会代表、そして塾生会議のグループリーダーなど、人をまとめ率いる立場に積極的に立ってきたリーダー気質のある女性です。ミス日本の大会の舞台では「将来は女性初の総理大臣になりたい」と告白し話題に。

大学では法律を選考し、弁護士・国際弁護士を目指して学習中。特に貧困と関わりの深い労働問題を専攻しています。特技の競歩は全国大会に出場するほど。得意は「小さな一歩を積み重ねること」。理想とする社会のため、日々鍛錬を欠かさず向上しつづけます。

準ミス日本



東海林杏朱
とうかいりんあんじゅ
17歳 東京都出身 高校2年

芸能活動を志すも、コロナの影響によりなかなか経験値を積むことができずに悩む日々。そんなときにミス日本の勉強会プログラムを知り応募。周囲の年上ファイナリストと同列に扱われる状況でも臆することなく貪欲に学ぼうとする姿勢の根本には「私は将来は芸能の世界で生き

ていく」という覚悟があります。すべては将来の活躍の布石。コンテストの舞台では一生懸命な姿が共感を呼び、見事準ミス日本を射止めた可能性の卵です。

1月6日

日本下水道施設業協会
賀詞交歓会にて振り袖水の天使

新年賀詞交歓会に、華やかな振り袖姿で2022横山莉奈が登場しました。横山はこれまでお世話になった方々に「下水道と医療は似ている。違いは、人は検査にくるけれど、施設は人が検査にいかないといけない。下水道を守ることはとても大事な仕事です」と自らの専門になぞらえてお話ししました。

1月20日

横浜市下水道管理協同組合
賀詞交歓会

水の天使の横山莉奈が、横浜市下水道管理協同組合の賀詞交歓会に出席。普段、お正月も盆も関係なく、生活を支える下水道を守る方々に直接お礼を述べながら、進行を行いました。

1月7日

ミス日本×スポGOMI
西新宿クリーン大作戦！

街頭清掃活動・ゴミ拾いにルールを定めて競技とした新しいスポーツ「スポGOMI」の公式大会をミス日本ボランティア協会が主催開催いたしました。ミス日本受賞者・OG・ファイナリスト、そして協力団体ら総勢30名で西新宿を清掃。普段から清掃の行き届いた公園にも関わらず、目を皿のようにして30分拾い集めたところ、なんと合計30kg以上のゴミを集めることができました。

1月24日

ブライダルスタイリストSOGA
ブライダルカタログ撮影

ミス着物の佐藤梨紗子がウェディングのカタログ撮影に臨みました。3回目の起用となり、普段は着用できないドレスを着て楽しみながら撮影しました。

1月12日

ゆめま～る訪問
大会お土産のクッキー作り

ミス日本3名が障がい者福祉施設のふれあい工房ゆめま～るを訪問し、一緒にクッキー作りを行いました。クッキーは素材にこだわって無添加。味も自慢で飛ぶように売られています。このクッキーはミス日本コンテスト大会の前日審査会お土産にもなり、毎年好評です。

1月25日

日本ダグタイル鉄管協会
関東支部セミナーIn千葉

水の天使横山がセミナー司会を務めました。今後、水道は厚生労働省から国土交通省へ管理が移ります。その影響や水道の最新研究の紹介が行われます。すっかり専門性の高い話も理解できるようになりました。

1月19日

日本内航海運組合総連合会
賀詞交歓会

ミス日本「海の日」属安紀奈が、日本内航海運組合総連合会の賀詞交歓会に司会として出席しました。3年ぶりの開催となり、多くの方々が来場。たくさんの方々の国会議員らもお祝いに駆けつけたことで、臨機応変に司会を務めました。

1月26日

国土緑化推進機構オンライン
協働によるこれからの森林づくり

みどりの女神の成田愛純が、オンラインセミナーの司会として登場。森林を守り育てている取り組みは、いままで恩恵を享受してきた企業や自治体そして市民らが中心に守っていくことが必要です。協働の姿について意見がかわされました。

1月27日

やまがた森林ノミクス 県民ミーティング



みどりの女神の成田愛純が、オンラインで開催された山形県の森林セミナーに司会として登場。豊かな森林資源を活かして、観光や健康医療、レジャーなど様々な取り組みが生まれています。森林で稼げる地域とならなければ、生き残れない。稼ぐ力こそ活力の源と気づく会でした。

1月31日

みどりの大使の初仕事！ WOODコレクション モクコレ



新しくみどりの大使に選ばれた上村さや香が、国産木材の先駆的活用事例の展覧会「モクコレ」に登場。OP式典でウッドカットに臨みました。会場には建築や家具などはもちろん

楽器や日用品における木の活用など、いままで無意識だった木がみえてきます。生活に木を利用することの豊かさや魅力を感じる最初の機会となりました。

1月28日

琵琶湖総合開発 「琵琶湖の水へのメッセージ」



水の天使の横山莉奈が一年間の経験を活かしてパネリストとして登場。医療と水について、治療で必要なことはもちろん、予防や健康にも重大であることを照会し、その水を守る地域の方々の取り組みに敬意を示しました。

1月31日

女性自身にてミス日本「海の日」 稲川夏希 3p記事掲載



女性自身に掲載された記事はオンラインでも配信。100件以上の好意的コメントが付く人気記事に！

1月の活動

- 6日 日本下水道施設業協会 賀詞交歓会/横山
7-8日 ファイナリスト向け勉強会 第4期
12日 障害者福祉施設ゆめまーる訪問/河野、属、佐藤
19日 日本内航海運組合総連合会 賀詞交歓会/属
20日 横浜市下水道管理協同組合 新年賀詞交歓会/横山
22日 前夜祭激励会
23日 第55回ミス日本コンテスト2023
24日 プライダルスタイリストSOGAカタログ撮影/佐藤
25日 日本ダクタイル鉄管協会セミナー-in千葉/横山
読売新聞 摂食障害特集取材/河野
26日 国土緑化推進機構
協働によるこれからの森林づくり 司会/成田
光文社 女性自身 取材/稲川
27日 やまがた森林ノミクス県民ミーティング 司会/成田
28日 琵琶湖総合開発「琵琶湖の水へのメッセージ」/横山
31日 WOODコレクション OPゲスト/上村
水道産業新聞社 取材/横山

1月のメディア掲載

- 16-18日 スポニチ ファイナリストリレー紹介
23日 スポニチ 前日審査会の様子とザ・プリリアント賞
24日 ミス日本コンテスト開催・結果発表に伴う報道
スポニチ始め、スポーツ新聞各紙やWEB報道など多数
共同通信配信ニュースなど
26日 新潮社「週刊新潮」3p コンテスト舞台裏
31日 光文社「女性自身」4p 海の日稲川夏希インタビュー
13,20,27日【WEB】FITNESS LOVE ミス日本便り掲載
【冊子】日本下水道協会「下水道協会誌」寄稿/横山
【冊子】林野庁「情報誌林野」寄稿/成田
【冊子】全日本海員組合会報誌「海員」寄稿/属

2月の予定

- 2日 週刊朝日 取材/吉岡
3日 高幡不動尊節分豆まき/吉岡,上村,稲川,寺嶋,東海林
7日 光硬化工法協会20周年記念式典 司会/竹田
表敬訪問 日本林業協会理事会,中部森林管理局ほか/上村
中部森林管理局林業従事者写真コンクール審査会/上村
農林中央金庫 第9回施業高度化サミット/22成田
8日 表敬訪問 国土緑化推進機構/上村
9日 表敬訪問 日本水道工業団体連合会など/竹田
10日 水資源機構 8月1日水の日ポスター撮影/竹田
水道産業新聞社 取材/竹田
11日 神奈川県下水道公社 下水道作品コンクール/竹田
13日 読売新聞 摂食障害特集取材 /22河野
14日 バレンタイン 高齢者福祉施設
メッセージつきプレゼント送付/23受賞者
15日 表敬訪問 日本下水道協会など/竹田
16日 林業土木協会 功労者表彰式/上村
20日 表敬訪問 東亜グラウト工業など/竹田
21日 表敬訪問 スリムビューティハウス,筑波乳業/23受賞者
22日 表敬訪問 スポーツニッポン新聞社など/23受賞者
23-26日 小型船舶操縦士免許2級取得講習/稲川
23日 松下政経塾フォーラムin横須賀 パネラー/寺嶋
山口県周南市立図書館 トークショー/22属
24日 農林水産大臣感謝状授与 成田愛純 表敬ほか/上村,22成田
27日 全国森林組合連合会 みどりの雇用ポスター撮影/上村
28日 森林サービス産業フォーラム 司会/上村
※2月中は上記以外に、多数の表敬訪問を実施予定

ファイナリスト勉強会 第4期

内面の美、外見の美、行動の美
これら3つの美を磨き、将来の夢を叶える実力を身につけます。



躍動するダンス

世界的ダンスアーティストで演出家のTAKAHIRO先生によるダンスの勉強会を開催。音楽にあわせて自由な発想で振り付けをしていき、それらをまとめて全員でひとつの作品作りに取り組みます。「緊張はしないよりしたほうがいい。緊張する場面の方が考えるし成長する。成長できることを喜べれば、緊張は楽しさの証拠になる」。先生がお話する言葉ひとつひとつに勇気づけられ、チャレンジ精神も育まれました。



△を生きる 海上保安庁女性トップの講演



今日の海上保安庁内において、女性で最高役職についている松浦先生による講義。海上の治安を守るバリバリの男性社会の中で、どのような苦労があり、そして理解者を得ていくためにどうしたか

をお話。ルールで定められていても人は簡単には変わらない。だから周囲から認められるくらい頑張らねばならない。社会で活躍したいと願うファイナリストは先駆者の言葉の重みを受け止めました。



ゴミ拾いをスポーツにしてわかったこと／マーケティングの視点から



(3ページ目にも記載)
スポーツとゴミ拾いの融合「スポGOMI」の大会開催の後に、日本スポGOMI連名の馬見塚健一先生と服部進先生からお話を伺います。単なる街頭清掃も、競技性を付与することで周囲が喜んで参加するスポーツへと変貌。いまや毎週どこかで大会が開催されるまでに普及しています。多くの方がどうすれば行動変容を促せるのか。競技など切磋琢磨することの大事さを学びました。



現役ミス日本からのメッセージ



2022ミス日本の現役5名が自らの体験を振り返り、アドバイスをする会を開催。各賞ごとにもし受賞したらどんな出来事があるかを紹介。そして、元出場者ならではの控室のヒントや舞台袖での体験談をお話。ミス日本コンテスト大会当日がよりよいものになるように、全員がお互いのためを考えて活発なやり取りがなされました。



自閉症者支援のAOAart



ミス日本協会が支援を続ける、自閉症者支援のAOAart。そもそもまだまだ世の中の理解が浅い自閉症。単に手を差し伸べるのではなく、長所を生かして社会参加を支えます。

今月のカリキュラム

- 7日
「自閉症者支援のAOAart」：藤島大千画伯、下村雄飛先生
「躍動するダンス」：プロダンサー TAKAHIRO先生
- 8日
「ゴミ拾いをスポーツにしてわかったこと／マーケティングの視点から」
：日本スポGOMI連盟 馬見塚健一先生、服部進先生
「△を生きる」：海上保安庁 松浦あずさ先生
「現役ミス日本からのメッセージ」：2022ミス日本 河野瑞夏、横山莉奈、成田愛純、属安紀奈、佐藤梨紗子